

プール

2021年8月1日

1 / 3

夏といえば海、プールであるが、ここでは Pool の別称である『ビリヤード』について紹介したい。少しかじった程度の者の執筆内容であるため、本気の指摘はご容赦願いたい。

さて、皆さん一度はビリヤードというものをしたことがあるだろうか。長い棒（キュー）を使って、白球（キューボール）を撞き、穴に^ま的球（カラーボール）を落とす競技である。

私がビリヤードに初めて出会ったのは、高校を卒業する前だったので 18 歳になる頃だったと思う。友人に「ビリヤードが楽しいので最近頻繁にやっている」と誘われて宇部新川のビリヤード場（今は閉店）に行ったのが始まりである。

キューを持ったこともなければルールも知らない。そんな中で始めていったがルールを覚えるのは簡単だった。



ビリヤードにはさまざまな遊び方があるが、私たちはひたすら「ナインボール」という種目に没頭していた。①～⑨までの数字がついた色の違う球がラシャに転がっている状態で、数字の若い方から落としていき、⑨ボールを落とした者が勝ちとなるシンプルなものだ。

白球を撞いて、目的の球に当たるよりも先に他の色の球に当たってしまうと、ファウルとなり相手にフリーボール（好きなところに白球を置いて始められる）を与えてしまうということくらいは知っておくと良い。他にもノークッションファウルなどの厳密なルールもあるが、友人同士などのローカルルールにより採用しない場合もあるので、そこはプレイヤーにおまかせする。

初めてのビリヤード以降、私もビリヤード場に頻繁に通うようになっていったのであった。当初誘ってくれた友人がマスター（当時 70 代後半）と親しくなり、一緒にいた私もよく面倒を見てもらった。

当時は自由な時間もかなりあったため、夜 8 時から朝 4 時までぶっ通しでやり、マスターが「もう閉めよう」というのに対して、「あと 1 戦」などごねて、不完全燃焼な様子で終わり、帰りに牛丼屋に寄って帰るなどしていたものである。

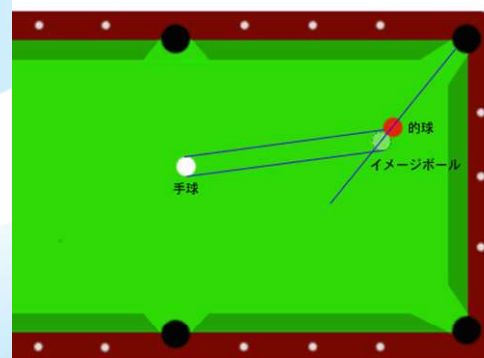
しばらくの間、わけもわからず球を撞き、球が入らず友人にボコボコにされる日々が続いた。ある時、マスターが、球が入る理論というものを教えてくれた。図を交えて説明したい。

まず、的球が、穴に入る方向というのはお分かりいただけると思う。穴に対して真っすぐ動くだけである。

次に、自分がキューで撞く手球（白）が、どうやって的球に当たるかである。これも的球が進みたい直線上のなかで、的球を真後ろから押してあげる位置に手球が行けば良いだけなのである。

これをイメージボールと呼ぶ。

問題はイメージボールの位置に手球を運ぶことである。



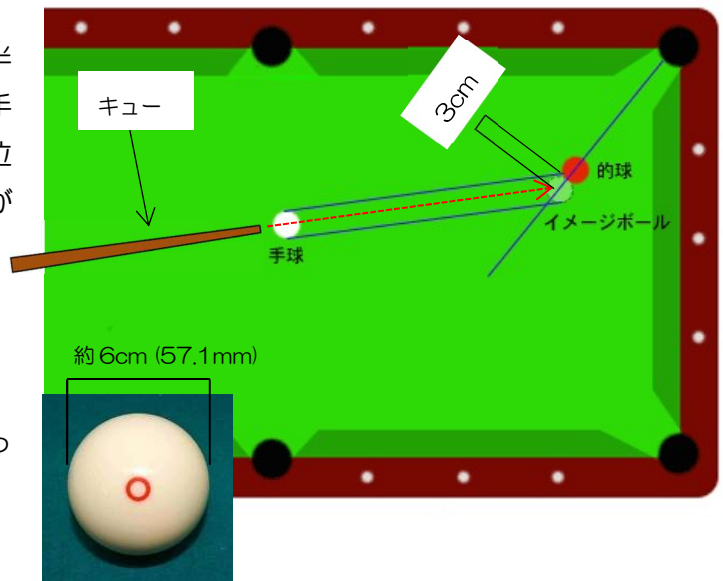
ビリヤード.jp さんの HP より引用

プール

2021年8月1日

2 / 3

これについて、初心者の私にマスターが教えてくれたのは、球の大きさは直径約6cm(57.1mm)だから、的球の穴への直線上のうち、3cm後ろ(球の半径分)のところに自分のキューの先を向け、手球の真ん中を撞くことで、イメージボールの位置に手球が転がるという理論であった。これが的球を入れる基本だと教えられた。



この理論を持つことで、感覚に全任せせず、根拠を持ちながら球を動かす習慣が始まった。確かに感覚でやるよりは球が入るようになった。だが、入らない場面も多々ある。なぜ、入らないのか。

ビリヤードで不調となるのは、基本的にフォームに問題があることがほとんどである。とにかく、フォームが大事な競技である。真っすぐキューを引いて、真っすぐキューを押し出すだけ。何を簡単なことを言っているのかと思うかもしれないが、人間のからだは思ったように動かすのは本当に難しい。

ゴルフをする方もひどく納得するだろう。イメージは完璧なのに現実で起きている結果は、自分でため息が出るレベルである。

頭の位置、ブリッジ(キューを支えるラシャ上に置いている手の形)、足の位置、ストロークなど気を付ける要素が多い。

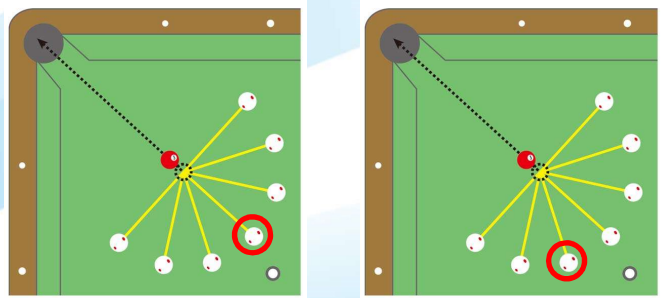
いかにフォームが安定しているかが、球を多く入れられるかに直結するといっても良い。(たぶん)

こうして、最初は慣れない姿勢に窮屈な思いをしていたが、徐々に慣れ、球も入るようになってきた。しかし、友人は自分以上にレベルアップしていくのでボコボコにされてしまう。まず、フォームの安定感と球を入れる精度が桁違いであるのは仕方ない。他に自分に圧倒的に足りなかったのは、先を考える力である。

ここで、例を挙げる。
あなたの番、フリーボールです。
好きな位置から始めていいですよ。
どこに置きますか？

多くの人は、穴に対して直線上の位置に置きたがる。ド真っすぐに置けば入れられるイメージがすごく湧いてきますね。(左図)

一方で、右図はそれなりにビリヤードをやっている人が置く位置(例)です。



ビリヤード教室 in 鹿児島さんのブログより引用

プール

2021年8月1日

3 / 3

なぜ、こんなことをしてくるのか。理由は、図中の赤い球を落とした後に狙う次の球のことを考えているからである。

左図を見ると、赤球を落とした後の白球の動きというのは穴方向の直線上のどこかになる。

つまり、前後の調整しか効かない。(力加減というのはすごく難しい)

右図の場合、正面から少しでも角度が付いた位置に置くことで、赤球に当たった後の白球の動きには角度が生まれる。置き方次第で、色々な方向に転がすことができるわけである。

上手い人は、ショットの安定感は勿論、次の球がいかに楽な位置でショットできるかというのを考えている。

ナインボールの開始時について紹介し忘れたので解説。9個の球が決まった位置に配置され、1番である黄色の球に手球を当てて(ブレイクショット)、散らばった状態からさあスタートとなる。(右写真参考)



先を考える力が足りなかったと述べた話に戻る。

その当時、私は2、3手先の球の動きを考えてプレーすることは頭の中でイメージできていた(実際に落とせるかは別問題)。

友人はというと、ブレイクショットを打って、散らばった状態を見て、マスワリ(相手の番に回すことなく全球取り切ること)狙えるな〜とか、8番をとるのがシビアだな、なんてことを言っていた。まだほとんどの球がラシャ上に残っているのにである。。

確かに球同士が密接して、穴へのラインがないような場合はパッと見て分かるが、全球取り切るまでのシナリオを描きながらの発言なので、驚きである。

実際に、マスワリをお見舞いされたことは数多くあり、5先対3先(〇回先に勝った方の勝ち)のハンデをもらった状態でも勝てない。

通算を通して、彼に5先対3先のルールで勝てたのはおそらく1回である。

ビリヤードのアマチュアはA~C級までであり、彼はのちに山口県のB級で優勝し、全国アマナインに出場するほどの実力になっていた。身近でやっていただけにかなりの驚きであった。

ビリヤードの試合の雰囲気というのは、紳士のスポーツそのものであり、ものすごく集中して1打1打にかけているかが伝わる。Youtube等で『ビリヤード 試合』とでも検索して見ていただきたい。

いとも簡単に球を入れて、当たり前のようにマスワリを決めていく場面も確認できると思う。

ちなみに私は、通算で一度しかマスワリをしたことがないが、達成した時、周りにいた人たちが祝福してくれたのを今でも覚えている。1から教えてくれたマスターにも感謝している。

球が上手く入らない時は、悔しいが、入った時の爽快感はビリヤードの外せない魅力である。

最近、マンガ喫茶等の施設内にビリヤードコーナーもあるため、是非とも気軽にビリヤードをしに行ってみてほしい。